

平成 29 年度 学校評価結果について

主に、生徒、保護者アンケートを中心に、「そのとおり」と「ほぼそのとおり」を合わせた値を肯定的回答、「やや違う」と「まったく違う」を合わせた値を否定的回答として集計・分析した。

1 回収率

生徒・学生	保護者	教職員
98.8 %	93.6 %	100 %

2 実施期間

平成 29 年 11 月 14 日（火）～ 24 日（金）

3 評価の高い項目・低い項目

1) 生徒、保護者ともに評価の高かった項目

「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」

「部活動は活発に行われている」

「有意義な学校行事がある」

「災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている」

「教育課程は、進路に適した科目選択ができる」

「学校行事は活発に行われている」

および看護科のみの項目については、生徒、保護者ともに肯定的回答が概ね 80 % を超えていた。

評価の高かった項目については昨年度と同じであり、また各項目の数値についても、前年度との有為な差は認められなかった。

2) 生徒、保護者ともに評価の低かった項目。生徒、保護者に差が見られた項目

① 「いじめの早期発見に取り組んでいる・いじめ問題に対する取組方針が共有されている」

肯定的回答は、生徒 59.1 %、保護者 39.4 % であり特に保護者の肯定的回答の数値が低い。しかし生徒の肯定的回答は、昨年度から 26 ポイント増加しており、生徒指導部を主体とした取り組みが、生徒にとって実感を伴う改善となっていると考えられる。また、保護者の数値の低さについては、わからないと回答した割合が 35.1 % と高いことから、項目の性質上、学校での取り組みが家庭に伝わりにくいことも肯定的回答が低い理由の一つと考えられる。

② 「学校の Web サイトを見ている・学校の Web サイトは充実している」

肯定的回答が、生徒 21.1 %、保護者 49.7 % と低く、否定的回答については生徒 74.2 %、保護者 22.3 % であった。

③ 「M&T タイムは自分の役に立っている・M&T タイムの実施内容を知っている」

肯定的回答が、生徒 52.3 %、保護者 31.2 % と低く、否定的回答が生徒 38.8 %、保護者 36.8

%と他の項目と比較すると高い。学びプロジェクトで改革を行っているところではあるが、如何に生徒に目的意識を持たせるかは重要な視点となると思われる。また、②と合わせて保護者に対してどのように学校の取り組みを広報していくかは課題と考える。

4 前年度からの変動の大きかった項目等

1) 生徒，保護者アンケートについて

①「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」

生徒，保護者ともに肯定的回答が減少し，否定的回答が増加した。旧校舎解体に伴う現状を考えるとやむを得ない面が大きいですが，生徒・保護者の関心の高さがうかがえる。

②「毎日，自主的に学習している」

生徒アンケートの肯定的回答が 18.8 ポイントと大きく増加し，否定的回答が 17.6 ポイントと大きく減少した。今年度，問いかけの文言を変更した影響も考えられるので，次年度以降継続的に注意していきたい。

③「PTAの一斉配信メールは役に立っている」

保護者アンケートの肯定的回答が 8.5 ポイント増加した。名称と運用方法に変更を加えたところであるが，保護者は概ね好意的に捉えていると考えられる。

2) 教職員アンケートについて

「校長は，みずからの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」

「校長は学校の実態を良くは把握し，真摯に対応しようとしている」

「教育課程は，生徒の進路希望に応える内容になっている」

「看護の基本知識や看護技術の習得できる指導が行われている」

「看護の本質や社会的意義について考える指導が行われている」

「スタディーサポート・模擬試験の分析を行い，弱点分野の補強を行っている」

「面談を計画的かつ効果的に実施している」

以上の各項目については，肯定的回答が，前年度と比較して大きく増加した。ここでは昨年度比で肯定的回答が増加した項目をあげたが，各項目ともに概ね 80 %前後の肯定的回答を得ており，全体としての取り組み状況は概ね良好であったといえるのではないだろうか。ただし，「支部PTAは学校と家庭の相互理解の場として役立っている」については肯定的回答が 57.0 %と低かった。